

老朽原発 うごかすな! ニュース

第149号

発行・老朽原発うごかすな!
実行委員会

[連絡先]
090-1965-7102

8・2「原発増設ゆるすな!緊急行動の関電本店前」やめろ!美浜での地質調査」集金に参加中

原発新設のための 地質調査に断固反対

8月2日、午後5時半から
関西電力本店前での抗議行動
「原発増設ゆるすな やめろ!
美浜での地質調査」に名古屋
から参加しました。
緊急の呼びかけではありません
したが、開始前から多くの人々



発言する名古屋の草地さん(8・2関電本店前)

日本ではもう原発はできるはずがないと思いましたが。ところが14年経って、なくならないどころか超老朽原発の延長を認め、政府が「原発の最大限活用」を言うようになってしまった現状に忸怩たる想いでいます。そこへきて、原発新設に動き出そうとする関電の暴挙に怒りがいっぱいです。

国策とは、一度走り出した
らとことんまで突き進んでしまふ愚かなものです。それ自体が生き物であるかのように増幅しながら転がっていくのではないかとの危機感があります。
だから、今、ここで声を上げないといけないと思います。関電社員や関係者も、10年、20年先のことで自分には関係ないと思うかもしれませんが、ここで新増設という方向を決めてしまったら、今後長く原発に縛られていくことになるということを考えるべきだと思います。原発など、未来に百害あって一利なし、です。企業の一時的な利益のために被害を受けるのは、何の恩恵も受けていない人々、子どもたちです。原発事故を目の当たりにした世代として、この動きに反対するのは当然の責任です。

私たちは、名古屋で関電の老朽原発廃炉のために裁判を闘っていますが、この闘いは、新増設を止めるためのものでもあると思っています。新増設には今後何十年かかるかわかりません。それまでの期間を既存原発で繋ぐつもりでしょう。関電社長も、今新設に動

原発増設ゆるすな! 緊急行動に参加して

この日は四国電力本店前行動を闘っている仲間と3人で参加しました。猛暑の中での緊急行動にも関わらず300人の結集があることは、関西での粘り強い闘いの結実を感じると同時に、出鱈目、誤魔化し、約束無視を繰り返す関電に対する怒りの大きさを強く感じました。

関西電力も四国電力も使用済み燃料の処理として、六ヶ所村再処理工場を言い訳にします。計画から30年以上。27回もの延期を繰り返す工場がまともに稼働するとはとても考えられません。最終処分は地層処分と言っているが、場所はいまだに決まらない。



関電本店に向け怒りのシュプレヒコール(左側に関電本店ビル)

き出すギリギリの時期だと言っています。
新設も運転延長も絶対に認めない!この声を上げていくために、皆様と共に頑張りたいと思います。
(老朽原発40年廃炉
訴訟市民の会
草地妙子)



発言する四国の名出さん(8・2関電本店前)

年どころか建設時には全く想定されていない60年超えのオンボロ原発までも使い続けるなど言語道断です。全てが出鱈目の原子力政策は、どんなに出鱈目でも「こうする。ああする」と言い続ければブザブと金が降ってくる。そこに群がる亡者には、「延期」という言葉はもはや金の音にしか聞こえていなのではないでしょうか。原子力に流し込まれる金は全て私たちの電気料金と税金です。弱いものを助けるために使うわずかな金額に文句を言うより、一部の企業のために注ぎ込まれる莫大な金にこそ声をあげるべきです。

結果には絶望しか感じられませんが。原発や戦争は差別のある社会でしか成立しません。私たちが闘っている反原発の闘いは命の問題です。差別のない、誰もが平和に暮らし、差別や貧困に苦しめられることのない社会を実現するため

8・2 原発増設をゆるさない！ 緊急集会に参加して

大阪は連日の40度超えの猛暑。関電前につけてると、緊急にも関わらず大勢の人が集まっていました。

復興の掛け声で、事故が終わったことに塗り替え、今度は新増設だと、これは黙っておられませんか。怒りの声を関電に届けなければと駆け付けました。

先日、信州にある無言館に行ってきました。森の中にある館内には生が輝いていました。絵に込められた「生きたい」という若き学徒の思い、生があふれているゆえに、無念と静かな深い怒りが感じられました。真実を覆い隠す大本営発表で世論操作をして、筆を銃

「核武装は安上がり」「デマでも選挙で選ばれたのは私だ」などと言っている輩どもを一掃して、核も戦争も差別もない社会を勝ち取りましょう。

(伊方から原発をなくす会
名出真一)

に持ち替えさせて死なせていました。

福島でも放射線被ばくの科学的根拠を示さず、事故後の4月19日には1msv(年)を20msvに引き上げ、文



主催者挨拶をする中島哲演さん(8・2関電本店前)

科省は児童を高線量下で登校させました。まだ多くの避難者がいるというのに、これからの健康被害に不安をもっている人がいるというのに、危険な原発の再稼働・新増設を進め、被ばく安全神話を社会化しようとする動きは、80年前と何ら変わっていません。国家という概念が被ばくの実相を覆い隠し、実体のない国家という魔物が命を弄んでいます。東電福島事故の国の責任は認めないという判決後、全国の裁判では国・東電が免責されています。



関電本店に向け怒りのシュプレヒコール(右側に関電ビル)

集会の最後で報告された、憲法の生存権違反ともいえる美浜原発3号機運転差し止め仮処分審尋での関電発言(原発運転することは本来行使できる権利であり自由である)と繋がりました。原発推進は国の命題、国民は身を挺してこれに協力すべし、これが国民の使命であるというのか、そんなひどいことを許すことはできません。ここまでくれば生存権をかけた闘いです。声をあげないと私たちは国家という魔物に飲み込まれてしまいます。集会終わりにはいい風が吹いていました。風は吹いてくると信じて。

(高槻市 長谷川くみこ)



労働者としての決意を述べる西山さん